

第47回歴博映画の会

能登半島地震 復興の行方



珠洲市大谷地区の秋祭り（2025年）

上映
と
解説

2026年

1月17日（土）13:30～15:30（開場 13:00）

入場無料 / 当日先着順（240名）

会場 国立歴史民俗博物館講堂

主催 国立歴史民俗博物館

協力 国立歴史民俗博物館友の会

第47回 歴博映画の会

国立歴史民俗博物館には、制作及び収集してきた民俗と歴史の記録映画があります。

これらの映像を通じて民俗と歴史への知識と理解を深めていただくとともに、歴博の研究活動を広く皆様に知つていただきたいと思います。教員による作品解説も行います。皆様お誘いあわせのうえ、おいでください。

この映画の会では、能登半島地震の発災から現在までの調査経過と文化財レスキューの一端を報告する。2024年の元旦に発震した能登半島地震は、マグニチュード7.6、最大震度7を記録し、奥能登の多くの地域に甚大な被害をもたらした。関連死を含めると650名を超える人命が失われ(2025年8月現在)、全村避難を余儀なくされたコミュニティーも少なくない。地域の復旧作業は遅々として進まず、震災から1年半以上が過ぎても、被災地の状況は、決して予断を許すものではない。しかも昨年9月の能登半島豪雨によって、地域は再びさらに大きな被害を受けた。過疎・高齢化が進行していた奥能登地域において今時の震災は、コミュニティーの根幹を揺るがし、その存続に大きな陰を落としている。

映像では、震災後から現在に至るまでの被災地の様子を奥能登の珠洲市を中心に紹介する。震災後の片付けや避難所の様子から、震災以前から協力してきた国際芸術祭の会場や民具の収蔵施設の被災状況の記録、地元での支援の試みと昨年の豪雨後の姿、震災からの復興を願う祭りの記録映像などを紹介したい。また、それと並行して行われた文化財レスキューの取り組みと救出された文化財の一端についても紹介する予定である。

上映作品

『能登半島地震 復興の行方』

(監修・撮影・編集:川村清志/2025年/約35分)

『珠洲市の文化財レスキュー能登半島地震と文化財』

(監修・撮影・編集:川村清志/2025年/約20分)

解説:川村 清志(国立歴史民俗博物館 准教授)



解体されていく民家



珠洲市の文化財レスキューの様子



珠洲市大谷地区的崖崩れの現場



珠洲市内に仮置きされたレスキュー資料

2026年1月17日(土) 13:30~15:30(開場13:00)

会場: 国立歴史民俗博物館講堂

申込不要・入場無料

(当日先着順240名)

【お問い合わせ】

国立歴史民俗博物館 広報課
043-486-0123(代)
sfukyu@ml.rekihaku.ac.jp



れきはくホームページ

(一財)歴史民俗博物館振興会
043-486-8011(平日9:00~17:00)
tomonokai@rekishin.or.jp



友の会ホームページ



【京成電鉄ご利用の場合】京成佐倉駅下車、バス約5分。徒歩約15分。

【JR東日本ご利用の場合】総武本線佐倉駅下車、バス約15分。

【自動車ご利用の場合】東関東自動車道、四街道ICまたは佐倉ICから約15分(無料駐車場完備)